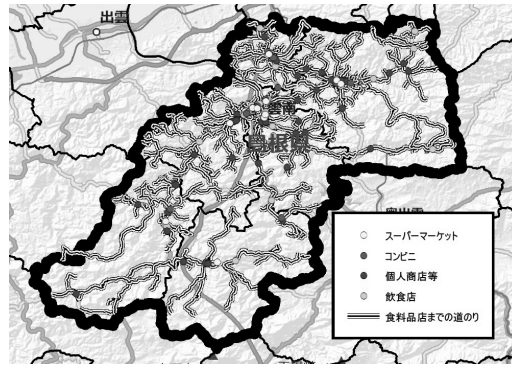


# 高齢者の栄養不足ハザードマップと食環境チェックリストの作成

五味 達之祐 ●雲南市身体教育医学研究所うなんん 研究員(管理栄養士)



雲南市の食料品店の位置情報マップ  
(地理情報システムにて作成)

## 1. 背景と目的

高齢者におけるフレイル(脆弱性が出現した状態)は公衆衛生上、世界的に取り組むべき課題である。本活動地域の島根県雲南市は日本全体の40年先を行く超高齢社会であり(高齢化率38.9%)、フレイルは喫緊の課題となっている。

フレイルの予防のためには低栄養状態にならない食生活を心がけることが重要である。そのためには多様な食品を摂取していることが大切であるが、それは高齢者にとって容易なことではない。農林水産省は、「距離」のような物理的な環境要因とその背景にある社会的・心理的要因を明らかにしたうえで、具体的な対策につなげることが必要だとしている。そこで本活動では、超高齢社会における、実際の保健事業に活かすための物理的食環境と質的食環境の見える化資料を作成することを目的とする。

## 2. 取組みの方法／期待される成果

### ①栄養不足ハザードマップ作成

地理情報システム内に活動地域在住高齢者を対象に行った調査結果と、食料品店の位置情報等の物理的環境のデータを統合することで、栄養不足ハザードマップを作成する。食生活の把握は高齢者の生活機能の維持に重要である食品摂取多様性を評価した質問項目と、食意識の項

目である。これにより、食の多様性が低くなるリスクが高い者はどのような環境に住んでいるのかを明確にする。

### ②食環境チェックリスト作成

インタビュー調査を行い、それをもとに食環境チェックリストを作成する。食行動の起因となる事柄を中心に聞き取り全て録音し、文字起こしをしたデータから言葉の抽出、カテゴリ化、重要カテゴリの抽出まで質的研究手法にて行う。重要カテゴリの中から、申請者と市役所の管理栄養士、保健師、歯科衛生士のチームで、高齢者の特に重要な食環境要因を整理し、チェックリストを作成する。またインタビューでみられた言葉同士の関連性について、共起ネットワーク分析を行い図示化する。

成果物は、上記①、②の2点である。それぞれ、①どこの地域に対して事業を展開すれば良いのか、②どのような人が潜在的ハイリスク者なのかに答えるツールである。地域レベルでの保健活動は広範囲に対して少人数で取り組まなくてはならないが故に、いかに効率的かつ精度高く事業展開するかがこれからの要となる。本事業の成果物は、市役所の保健実施者が作成に関わるので、地域保健活動に直結して活用できる。また作成から活用までのプロセスが、他の地域のモデルとして展開されることが期待される。